
自分で考えて行動できる子の育成 ～「学びをつなぐ 心をつなぐ 未来をつなぐ」教育活動を目指して～

川崎市立幸町小学校

校長 瀧寺 繁夫

研究主任 高松 光基

研究副主任 岡 拓也

1. はじめに

本校では「やさしく思いやりのある子 かしく視野の広い子 たくましく自分をきたえる子」を教育目標に掲げ、一学び合い 高め合い 共に創る学校となることを教職員一同目指している。そして本校で学ぶすべての児童一人一人がそれぞれに合った確かな学力、ゆたかな心、健やかな体の調和を保ちながら、基礎的・基本的な知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などいろいろな力を身に付けることで、21世紀の情報基盤社会に順応した「生きる力」を育むことになると考え、日々教育活動を行っている。

今年度の研究である「キャリア在り方生き方教育」は、「自主・自立」「共生・協働」をキーワードに、「変化の激しい社会の中で、誰もが多様な個性、能力を伸ばし、充実した人生を主体的に切り拓いていくことができるよう、将来に向けた社会的自立に必要な能力、態度を培うこと」「個人や社会の多様性を尊重し、それぞれの強みを生かし、ともに支え、高めあえる社会をめざし、共生・協働の精神を育むこと」を基本目標に新しい時代に向けた本市の重要な教育施策である。本校の児童が様々な教育活動を通して、自分で考えて行動できるようになることこそ、真の生きる力を身につけることであるという思いから、研究がスタートした。

2. 研究への思い

人は誰でも、幸せな人生を願っている。子どもたちは、将来へ限りなく夢や希望を抱くものであり、その子どもを見守る大人たちは、常に子どもの幸せな将来を望んでいる。未来のあるかけがえのない子どもたちが、生きがいのある幸せな人生を歩めるようにすること、そしてそれを支える大人、社会が活力と笑顔にあふれるものであることが大切であり、それらの実現をめざすことが教育の使命であると考えられる。

本校は今年度5人の初任者を迎え、経験年数が10年未満の教員が職員全体の半数以上を占めている。よ

って、校内研究をどのように推進していけばよいのか等、内容以前に校内研究に対する姿勢や考え方を共有する必要がある。そのため今年度の研究は、教職員が本市の重点施策である「キャリア在り方生き方教育」について知り、理解を深めることを通じ、子どもたちの真の生きる力を育み、我々教職員の指導力向上や資質を磨くことにつなげたいと考えている。

3. 主題設定の理由

主題設定にあたりまず、本校の児童の実態について教職員で話し合いを行った。その話し合いの中で、本校の児童は、素直で真面目な子どもが多く、あいさつができたり、時刻やルールを守ったりすることができるが、主体的に何かをしていこうという力が弱いという課題が見えてきた。主体的に行動するためには、「将来の夢」を明確にもち、「今何が必要なのか」「この先どんなものが必要なのか」を自ら考える力が必要である。また、考えるだけでなく、自分の思いを行動に移せる勇気や、判断力が必要となってくる。そのような能力を互いに交わり合うことで、充実した人生を切り拓き、高めあえる社会を創り上げていけるのではないかと考えている。そのことから、本校では今年度の研究主題を「自分で考えて行動できる子の育成」に設定した。

自分で考え行動することは、大人になってもなかなか難しいことである。だからこそ、小学校という段階から、自分のこと、他者を大切にしようとする心や周りの状況を判断しながら、主体的に行動する力を身につけることができれば、きっと幸せな人生を送れるのではないだろうか。

4. 研究の内容

初年の「キャリア在り方生き方教育」の研究を進めるにあたって、まず始めに、職員の研修と本校の特色ある教育活動一つ一つに価値づけをし、それぞれの活

動でどんな力を児童につけさせていきたいのかを考えると。またそれらを、一つ一つの活動として終わらせることがないよう、それぞれの活動で身につけた力が次の何につながっているのか、その「つながり」を児童と教職員が学ぶものとしていくこととした。

(1) 職員研修

先述したように、本校には、経験年数が少ない教員も多く、校内研究を進める経験が少ないという現状から、研究の捉え、考え方から始める必要がある。そのため、職員研修を行うことで、まずは教職員のキャリア在り方生き方教育に対する理解を深めることとした。



研修では、目指す子ども像の具体的な姿と学習場面、つけたい力のために教科等の指導で取り入れたい方法、子どもたちを育てる「言葉」について、講師を招いて研修を行った。研修を通して、「キャリア在り方生き方教育」について教職員全体で共通理解をすることができ、具体的に教育活動にどう生かしていけばいいのかを考えることが出来た。児童のことを考え、教職員が研修をすることも「キャリア在り方生き方教育」の一つであり、この研修を日々の教育活動につなぐことが重要だと考えられる。

(2) 本校の特色ある教育活動

① あいさつ運動

本校では、朝のあいさつ運動を行っている。



この活動は教師が発案して行っているわけではなく、代表委員会を中心に、児童が中心となって行っている取り組みである。クラス単位で毎日行っているが、クラスごとに「どうすればみんながあいさつできるようになるのか」と考え、それぞれが工夫をこらしたあいさつ運動を行っている。この活動を通して、あいさつの大切さを学び、元気で明るい学校を自分たちで創っていかうという思いを育てていきたいと考えている。

② たてわり活動

6年生の児童を中心に、1年生から6年生の異学年集団による活動をしている。



たてわり活動では、6年生が活動内容を考え進行するが、6年生だけが全ての役割を担うわけではなく、それぞれの学年にも役割分担をし、みんなでたてわり活動をするという意識をもたせるようにしている。それぞれが自分の役割をしっかりと果たそうとする姿が多くみられ、知らず知らず異年齢の仲間と付き合う態度やスキルを身につけることができている。

③ 朝会・集会

本校の朝会では、児童が自然と話を聞く姿勢ができるまで教員は話し出さないという共通理解がある。その取り組みを続けていったことで、時間になるとどんなに話している児童もすぐに前を向き、話を聞く姿勢をするようになった。あるクラスでは、朝会であった話を再度確認し、大切なことは何だったのか、またそれを生活の中でどう活かしていくのか考える時間を作っている。そのことで、普段の学級指導や授業の中でも人の話を聞くことや、気持ちの切り替えをするということが素早くできるようになった。

委員会集会では、5・6年の児童が集会を進めていくが、始め方は朝会と同様で、全校児童が話を聞く姿

勢ができるまで話し出さないという約束が定着している。これは指導をしたわけではなく、朝会での教員の姿を見て、児童が始めたことである。

教員の姿から学び、よいと思うことを進んで行おうとする力を身につけていってほしい。また、教職員も同様に児童の手本となれるような指導を考えていくことができると考えている。

④音楽集会

本校には「伝えよう思いを 響かせよう歌声を」という合言葉がある。全校で毎月の歌に取り組み、全校で合唱をしたり、各学年でそれぞれの発表をしたりと全校でお互いの成長した姿や思いを、音楽を通して共有している。



感想交流の中では、自身のがんばりや他学年のいいところなどを発表し合い、自分たちの自信につなげることが出来ている。上の学年のすごさや、下の学年の成長を見ることで、切磋琢磨し合う子どもになってほしいと考えている。

⑤学校環境創り

今年度の研究では、学校環境についても取り組みを行っている。

一つ目としては、校内掲示板的活用である。これは、階段に設置されている学年掲示板、校長室前掲示板などに道徳教育重点目標や毎月の生活目標などに関連付けながら、道徳的価値を意識させるものを掲示することで、心を育てる環境作りを行っている。

今年度は年間で6つのテーマで掲示を行うことにした。行事の前や長期休みの前などに全校で取り組むことにしている。多くの児童が各学年の掲示板の前に行くと、友達の書いた内容をじっくりと読む姿が見られている。友達の思いを知り、自分だったらどうしてい

くか、友達にどんなことをしてあげられるのか、考えて行動できるような環境を作るようにしている。



二つ目としては、階段の蹴込板の活用である。児童が毎日使う階段に、ふわふわ言葉を掲示し、児童に温かな心を育てることをねらいとして取り組んでいる。



その言葉を見て、児童は、ふわふわ言葉をたくさん使うようになっていく。

学校環境を整えることで、児童の心を耕すことができたと考えている。

5. 今後の研究の展開について

4月から9月までの期間では、職員の研修を行い、「キャリア在り方生き方教育」への理解を深め、日々の教育活動に生かしていくこととする。9月からは研修で身につけたことや考えたことを生かし、授業実践を行い、協議等を通して、キャリア在り方生き方教育を意識した授業づくりについて共有していきたい。

また、年間指導計画やキャリア在り方生き方教育の全体計画などの作成と整理を行っていききたいと考えている。

新しいことを始めるのではなく、今ある教育活動一つ

一つに価値を見出し、児童の成長につなげていくことができるようにしていきたい。子どもが明確な夢をもてる工夫、夢を実現するため、今を大切に活動を考え、実践していきたいと考えている。

6. おわりに

今年度から始まった「キャリア在り方生き方教育」の研究。教職員もその取り組みについて理解を深め、子どもたちと共に成長する研究になっていけるといいと考えている。「道德って何？」という視点から始まった4年間の道德教育の研究では、児童一人一人の心を大きく成長させることができ、それと共に教職員の道德教育に対する思いや、考え方が大きく変わった。今年度も「キャリア在り方生き方教育って何？」から始まった研究である。疑問から始まる研究だからこそ、教職員の「知りたい」「分かってほしい」「活かしていきたい」という思いにつなげていきたい。

子どもたちをどんな風に育てていきたいのか、そのためにどんなことをすることができるのか、時には、熱く思いを語り合う職員の姿が見られるようになってほしい。「自分で考えて行動できる子」という主題は、目指す子どもの姿と同時に、教職員の姿でもある。子どもたちの未来を拓くために、今後も職員が一丸となって研究を深めていきたい。